



2025 年度（令和 7 年度・第 11 期）

事業計画書

1. 2025 年度 事業方針
2. 2025 年度 事業計画書
3. 中期計画目標（2025 ビジョン）
4. 2025 年度 活動予算書

1. 2025 年度 事業方針

～設立 10 周年を迎える節目の年に、広がり・繋がりがり・称え合う～

2025 年度、ポケットサポートは NPO 法人設立 10 周年という大きな節目を迎えます。前年度を、【高く羽ばたくための、土台を確認する年】と位置づけ、これまで積み上げてきたものを振り返り、次のステージへの準備を進めてきました。

その中でも特に大きな一歩だったのが、岡山県内すべての「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」の相互交流支援を受託できたこと。地域に根差した出張型の交流イベントを各地で実施できたこと。さらに、新たな倉敷市の小慢支援事業として、1 月からは倉敷中央病院の小児科病棟での交流支援も始まりました。

また、私たちが主催する講演会やシンポジウムでは、全国の皆さんと共に、病気の子どもたちの未来について考え、行動を起こす機会を持つことができました。こうした繋がりが、私たちにとって大きな力となっています。



9 月には新たな支援拠点を岡山市北区春日町に移転し、そこには連日、子どもたちやご家族、医療関係者や院内学級の先生方、そしてボランティアの方々が訪れてくれています。ここで新しい出会いや学びが日々生まれ、岡山における病気療養児支援の「拠点」としての役割が、少しずつ形になってきたと感じています。

ある子どもが、こう言ってくれました。

「行きたい場所なんてあまりなかったけど、ポケサポは行きたい場所になった」

ある保護者の方は、こう話してくれました。

「もっと早くポケットサポートのことを知っていればよかった」



必要としているのにまだ出会えていない子どもたちやご家族が、私たちの周りにはたくさんいます。知っていても、最初の一步が踏み出せずにいる方々もいます。そんな皆さんと、これからも出会っていきたいと願っています。

「今まで、よく頑張ってきたね」

「これからも一緒に進んでいこう、ひとりじゃないよ」

子どもたちも、ご家族も、関係者の皆さんも、それぞれの暮らしを一日一日、一生懸命に過ごしています。その頑張りを認め合い、称え合う関係性を大切にしたい。それが私たちの願いです。

2025 年度の事業方針

【広がり、繋がる、称え合う】

設立 10 周年を迎える 2025 年度は、この想いを胸に、次のような 3 つの柱をもとに事業を展開していきます。

1. 病弱児の身体的・精神的状態に合わせた学習・復学支援事業

子どもたちが自分のペースで安心して学べる場所、相談できる環境づくりを目指します。昨年度に引き続き、外部団体とのコラボイベントや専門家との連携も取り入れながら、子どもたちが「楽しい!」「また来たい!」と思えるような場を広げていきます。病院内での対面支援も再開されたことを活かし、医療機関・院内学級・教育委員会としっかり連携を取りながら、子どもたちの復学や学びを支えていきます。

2. 病弱児同士の交流・学習活動支援事業

岡山県内全ての小児慢性特定疾病児童の相互交流支援が加わったことで、「ポケットスペース」の開催に加え、相談事業も平日ほぼ毎日実施できる体制が整いました。病院や自宅から参加できるオンライン支援や、地域出張型の交流イベントを通じて、子どもたちとご家族が安心して繋がる時間を届けています。

特に、ピアサポートや専門職との連携を活かして、「自分らしい家族のかたち」を大切にできるような支援を、きょうだい児やご家族にも届けていきたいと考えています。



3. 病弱児支援に関する啓発・拡充事業

就学・復学・進路に関する相談が増える中で、地域の支援ネットワークの構築も進めています。支援学校のセンター的機能や、教育委員会との連携を深め、ひとりでも多くの子どもに必要な支援が届くように取り組みます。また、全国の小児慢性特定疾病支援の関係者と連携し、岡山発の「病氣療養児支援モデル」を形にするため、情報発信やコンテンツ制作、学会・講演活動にも力を入れていきます。

岡山という地域で、病気とともに生きる子どもたちとご家族が、少しでも安心して過ごせるように。そして、「出会えてよかった」と思ってもらえるような支援を、これからも届けていきます。設立から 10 年。この 10 年の歩みを礎に、2025 年度は【広がり、繋がり、称え合う】年として、また一歩前へ。これからも、仲間とともに、未来をつくっていきます。

代表理事 三好 祐也



2. 2025年度（令和7年度・第11期）事業計画書

(1) 病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
個別学習支援 (双方向 WEB)	自宅療養中や復学初期の子どもに対して 支援拠点や ICT を活用した学習支援	年間 延べ 50 名	小中高校生 延べ 50 名	随 時 支援拠点等	500,000
ボランティア育成	学習支援及び相互交流支援を行う 人材育成、ボランティアリーダー育成	年間 延べ 20 名	大学生 延べ 100 名	年 5 回 オンライン等	300,000
ピアサポート事業 (岡山県)	小児慢性特定疾病児童等自立支援員が ピアサポート相談や多職種と機関連携 (岡山県小児慢性特定疾病児童等自立支援員相談等支援事業)	年間 延べ 300 名	小中高校生 延べ 80 名	年間 240 日 県内 5 拠点	5,400,000
科学と数学の 対話型体験学習	探究学習プログラム GEMS を活用した 学びや発見・考える楽しさを再発見する (MDRT Foundation-Japan 助成)	年間 延べ 30 名	小中高校生 延べ 50 名	年 2 回 県内現地開催	200,000
小計					6,400,000

(2) 病弱児同士の交流や集団での学習活動支援事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
ポケットスペース (岡山県)	利用者の環境に応じた相互交流、 学習支援、地域出張イベントを実施 (岡山県小児慢性特定疾病児童等自立支援事業)	年間 延べ 300 名	小中高校生 延べ 130 名	年間 80 日 県内 5 拠点	3,100,000
ポケットスペース (岡山市)	利用者の環境に応じた相互交流、 ピアサポート相談、学習支援を実施 (岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援事 業)	年間 延べ 300 名	小中高校生 延べ 130 名	年間 100 日 県内 5 拠点	2,200,000
ポケットスペース (倉敷市)	利用者の環境に応じた相互交流、 ピアサポート相談、学習支援を実施 (倉敷市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業)	年間 延べ 300 名	小中高校生 延べ 80 名	年間 50 日 県内 5 拠点	1,800,000
交流イベント (きょうだい含む)	季節に応じた体験交流イベント開催で 当事者同士のピアサポート、自分らしい 家族形成支援につなげる	年間 延べ 50 名	小中高校生 延べ 100 名	年 5 回 オンライン等	1,000,000
小計					8,100,000

(3) 病弱児への支援に関する啓発活動および拡充事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
講師派遣事業	大学等の教育機関や研修会に講師派遣 病弱児支援について広報、周知活動	年間 延べ 20 名	受講者 延べ 600 名	随 時 全国各地	200,000
みんなでつながる フェスティバル	様々な困難を抱える子どもや家族に 音楽鑑賞やマジックショーを提供 (橋本財団助成)	年間 延べ 50 名	小中高生 保護者 延べ 100 名	年 1 回 岡山市内現地	450,000
病気療養児支援の メディア構築& 勉強会開催	当事者家族とつながる機会を増やす メディア構築と気軽な勉強会を開催 (ベネッセこども基金自主事業)	年間 延べ 50 名	教育関係者等 延べ 100 名	随 時 オンライン等	1,500,000
支援者向け スキルアップ研修	病気療養児に携わる支援者向け スキルアップワークショップ開催 (田辺三菱製薬手のひらパートナープログラム助成)	年間 延べ 50 名	教育・医療 関係者 延べ 100 名	年 2 回 県内会場	900,000
10 周年記念事業	支援者向けオンラインワークショップ、 記念フォーラムの開催 (タケダ・ウェルビーイング・プログラム助成予定)	年間 延べ 50 名	教育・医療 関係者 延べ 100 名	年 1 回 現地 オンライン	1,500,000
小計					4,550,000

事業費合計：19,050,000 円

3. 中期計画目標（2025 ビジョン）

Vision（解決を目指す社会問題および実現を目指す理想像）

病気を抱える子どもが、将来に希望を持ち自分らしく暮らせる社会をつくる

Mission（ポケットサポートが社会で果たすべき使命）

1. 『**環境をつくる**』 病気を抱えていても子どもらしい時間が過ごせるように
学習支援・復学支援・自立支援ができる環境をつくる
2. 『**生きる力を育む**』 病気による困難を抱えていても前向きに生きていけるよう
当事者や専門家と共に子どもや家族の「生きる力」を育む
3. 『**人や気持ちを繋ぐ**』 病気の子どもに関わる人を繋ぐコーディネートを行うと
共に社会への理解啓発により支援者を増やしていく

＜2025 年度に実現を目指す社会や対象の状況＞

1. 『環境をつくる』取り組み

- ①学習、遊び、体験、相談を通した復学支援・自立支援を行う
- ②外出困難な子どもや家族へ、アウトリーチや ICT 利用による学習や相談支援を行う
- ③入院中や療養中の子どもの対応を個別に検討
- ④教育行政や学校現場と連携し、慢性疾病等の小学生～高校生の入院中及び療養中の
教育機会の提供を目指す(ICT 利用による学習、出席代替のシステム作り等)
- ⑤スタッフ及び支援ボランティアをはじめとする支援者の育成と教育
- ⑥岡山市内・近隣地域を含む医療機関内での支援活動を行う

2. 『生きる力を育む』取り組み

- ①子どもたちが自分自身の困難を知り「伝える努力」と「休む勇気」を持てるよう
ピアサポートを通じて、合理的配慮を得るための手法を伝え広める
- ②保護者が集まり日頃の悩みを話す場、ピアカウンセリングできる場を提供
- ③病弱児やそのきょうだいの楽しめるイベントを開催
- ④病弱の若年者が働ける環境作りの協力と支援

3. 『人や気持ちを繋ぐ』取り組み

- ①医療・保健行政との連携による、慢性疾患児やその家族との関係構築
- ②岡山市内・近隣地域の学校との連携による、慢性疾患児の学校生活における個別案件の共有
- ③他の病弱児支援団体との連携やノウハウの共有・会の共催
- ④病弱児の置かれている環境の理解を広げる講演・啓発活動開催、ツール作成